

SHANTI



2022.1.冬
Vol. 313
シャンティ

巻
末
言
道

特集

40年の あゆみ



シャンティ40年

シャンティ国際ボランティア会 専務理事
岡本和幸

シャンティ国際ボランティア会は設立40周年を迎えました。

曹洞宗東南アジア難民救済会議 (JSRC) から曹洞宗ボランティア会 (SVA) へ進む草創期に携われた皆さまのご苦勞は筆舌に^{あまた}尽くせぬものと拝察いたします。その後も数多の試練に遭遇しながら、大勢の皆さまのご理解とご支援、そして活動への参画をいただき、現地の人々に寄り添い「共に生き、共に学ぶ」を信念として、子どもたちへの教育支援、文化支援を中心に、40年にわたる活動を継続することができました。

そのような節目の年に、はからずもミャンマーではクーデター、そしてアフガニスタンではタリバンの全土掌握と、海外の活動地で相次いで大きな政変が発生しました。そして国内では長引くコロナ禍による活動への制約など、さまざまな困難に直面してまいりました。先の見通せぬ状況に置かれながら、東京事務所の職員も現地職員も、「こういう時こそ私たちが動かなければ」という思い



(ミャンマー訪問)

のもと、命の危険さえもかえりみず事業の継続に奔走、奮闘しています。その姿を目の当たりにして、改めて設立以来育まれたシャンティの理念が、人から人へ継承されていることを確信しました。

平和な社会の実現のためには市民間の交流が不可欠ですが、急速なグローバル化により民族間の対立や経済的格差が助長され、各地で紛争が繰り返されています。残念ながら平和への道のりはまだまだ半ばで、当会の果たすべき役割も尽きることがありません。

シャンティの先達方、そしてこれまで温かいご支援をお寄せくださいました皆さまの想いを大切に、当会に伝承されてきた理念のもと、たゆみなく平和を希求し、取り残された人々に寄り添い、子どもたちはもとより現場の人々が笑顔になれるよう、活動を継続していく決意を新たにしています。奮闘せずとも笑顔のあふれる社会が一日も早く実現されるよう祈りながら。



SHANTI vol.313 CONTENTS

- 4 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会40年記念対談
事務局長 兼 アフガニスタン事務所 所長 山本英里 × NHKワールド シニア・ディレクター 道傳愛子さん

8 特集 40年のあゆみ

12 座談会
シャンティのこれから

16 海外事務所職員紹介

23 所長座談会
最前線から いま思うこと

- 30 ファインダーをのぞいて
「笑顔を届ける」
31 お知らせ
32 道 シャンティ40年
シャンティ国際ボランティア会 専務理事
岡本和幸

シャンティ設立から40年の月日
が経ちました。これまで出会った子
どもが親となり、自らの子を図書
館へ連れてくるなど、シャンティが
地道に蒔いてきた種が花開く瞬間
も目にするようになってきました。
その一方で、ミャンマーやアフガ
ニスタンなどでは、学ぶことが難し
い状況が続いています。そのような
中でも、「共に生き、共に学ぶ」こ
とのできる社会の実現を目指し、目
の前の状況と人に真摯に向き合い
ながら、前に進んでいます。社会や
環境が変わっても、シャンティの想
いと姿勢は変わりません。
区切りではなく、通過点として。
シャンティの40年間のあゆみと積み
重ねを振り返り、今も活動地で奮
闘する姿をお伝えします。



今号の表紙

ミャンマーに届けた絵本
『おつきさまこんばんは』
福音館書店(2015年撮影)
@Yoshifumi Kawabata

選択肢が 広がる場

これまでにアジア各国の教育、ジェンダー、難民など人間の安全保障に関わる問題取材し、現在はNHKワールドのシニア・ディレクターを務める道傳愛子さんと、アフガニスタン駐在の経験からアフガニスタン事務所所長と事務局長を兼任する山本英里が、女性にとっての図書館の役割や、今後の発展の在り方について語りました。

女の子の居場所としての 図書館

山本…2002年から7年ほどアフガニスタンに駐在していたのですが、最初女性性は私一人でした。現地での課題解決に向けて女性職員を募集してみたところ、面接に旦那さんが付いてきて

ちはまず図書館という場を知り、そこで本を読むという選択をして、そこからさらに世界が広がっていくという経験をする。そのような機会が生み出されています。本を読んで楽しい、というだけではなく、本を読むことで生きていくための選択肢が広がっていく。そんな場を生み出しているのがシャンティだと感じます。

目指すべき理想像を もう一度描くべき時

山本…シャンティを含め業界全体として、どのような発展を理想像とするかはこれから考えていくべきことのひとつだと思います。

アフガニスタン職員が来日した時、日本の発展に驚き、目を輝かせる反面、自分たちはこれを求めているわけではないと口をそろえて言うんですね。たとえば広大な敷地と緑豊かな国を守りつつ、自分たちの発展や女性の権利も含めて、理想的な将来をどう描くか、もう一度考えるべき段階に来ているように強く感じています。選択肢

特別連載

公益社団法人シャンティ国際 ボランティア会 40 年 記念 対 談

事務局長 兼
アフガニスタン事務所 所長

山本英里

PROFILE

2002年より、アフガニスタンに7年間駐在。その後、パキスタン、ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、カンボジア、ネパールでの教育支援、緊急救援に携わる。2019年より現職。アジア南太平洋基礎・成人教育協議会（ASPBAE）理事、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）理事。

NHK ワールド
シニア・ディレクター
どうでん

道傳愛子さん

PROFILE

2000年から、バンコク特派員としてASEAN地域の政治・経済、タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジアなどで教育、ジェンダー、難民など人間の安全保障に関わる問題取材。訳書に『マララ教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』（岩崎書店）がある。国際政治学修士。



本人とは話せなかったり、二人きりの時しか顔を見せてくれなかったり、採用の場面でも困難がありました。

こうして入ってくれた職員と一緒に、子どもたちの居場所を作りたいと始めたのが、子ども図書館でした。多い時では1日に160人ほどの子どもたちが訪れ、そのうち半数が女の子。

図書館では、自由に絵本を読んだり読み聞かせをしたりすると同時に、女の子たちの趣味をつくる活動も行っていました。ビーズや刺繍など、それぞれが好きなものをつくることから始めて、最近では技術に長けている子も出てきました。将来的に商品化できないかという話があがってきているほどです。シャンティができることは、このように学校外でもさまざまな場を生み出して、チャンスが得られる機会を増やしていくことなのだと思います。

道傳…選択するためには選択肢がないといけない一方、置かれた環境の中で、選択肢があることすら知らない女の子や子どもたちが数多くいるという現状ですね。

シャンティの活動地では、子どもたちが広がることの意味を一緒に考えていけないといけないのかもしれない。

道傳…現地の方たちあつての開発であり、発展ですよね。

山本…私たちの手法はすごく時間がかかると感じる一方、対話を重ねて起こった変化は、着実に根付いていくという実感があります。本を1冊読んだからといって次の日から何かが変わるわけではないのですが、その積み重ねで知識や想像力が培われて、一人ひとりが行動を起こして変わっていくという様子を実際に目にしてきました。

道傳…この長引くコロナ禍で、さまざまな社会課題がより見えるようになってきたことで、現状のままでよいのか？という疑問や気づきを持った人はたくさんいると思います。そこからいざ何かが行動しようと思った時に、シャンティが「触媒」として組織と個人をつないだり、アドバイスをしたり、大きなムーブメントにつなげていくことができるに違いないと思います。そのムーブメントの中に私個人、そしてメディアも入れていただきたいです。



記念対談を行った後の8月15日、タリバンがアフガニスタンの首都カブールを制圧後、勝利宣言を行いました。この状況を受け、道傳さんと山本事務局長が緊急に追加対談を行いました。

過去20年で 改善が進んだ教育分野。 これからの教育の機会を どう守るか

道傳…情勢が急変して、誰もが驚いています。シャンティの皆さんは長年アフガニスタンで活動していますが、どのように見えていますか。

山本…8月に入ってタリバンの侵攻が続く中で、じわじわと時が迫ってきているのは感じていましたが、8月15日になるとは予想以上の早さでした。オンライン会議中に、現地職員の家族から「住んでいる地域がタリバンに陥落された」という連絡が入って。何かが崩れ去ったような気持ちでした。

道傳…以前、日本人職員が常駐できないといった制約がある中で、自立的に活動を進められるように伴走してき

は否定していませんし、訓練を受けた先生の数も増えています。

100%今まで通りの活動は難しいと思いますが、20年前もゼロから進めてきたので、もう一度やるしかない、と現地職員とも話をしているところです。

これまでの積み重ねを 希望にして

道傳…現在の活動はどのような形なのでしょうか。

山本…私たちの活動がどういう形で受け入れられるか、一緒に事業を進めていた教育省関係者と情報交換しながら、暫定政権と調整をし始めました。絵本もすべて職員が内容を改めて確認して厳選するなど、また少しずつ配布する準備を進めています。

また、これからも継続してシャンティでの勤務を希望している女性職員のために、環境整備や安全の確保も含めて、彼女たちの働く権利を担保できるように模索しています。

道傳…これまでの積み重ねを思うとやりきれない気持ちになります。確

COLUMN

アフガニスタンで何が起きたのか

8月15日にタリバンがアフガニスタンの首都であるカブールを制圧し、翌日には勝利宣言を行いました。現在、国内の武力衝突などは落ち着いているものの、行政や経済活動はままならず、それに加えて長年にわたる紛争、干ばつなどの自然災害によっても多くの市民は困窮し、その数は国民の半数以上にも及ぶといわれています。

シャンティでは、制圧前から予定していた食料などを届ける支援を中断し、現在は関係機関と活動再開の可能性について調整を進めています。また教育支援についても、中央政府による今後の教育政策は極めて不透明で、どこまで活動が可能かを協議しています。職員の安全を第一に、必要な支援を継続できるような模索が続いています。



実に育った人材がいますよね。人材だけでなく、教育の重要性を知った大人、本を読むことの楽しさを知った子どもたちも。そういった人たちの存在に希望がありますね。

山本…そうですね。子ども図書館にきていた子どもたちが大人になり、自分の子どもを図書館に連れてきてくれたり、学校の先生も給料がいつ支払われるかわからない状況の中、毎日生徒のために来てくれて。

こうしたことはこの20年間での大きな変化だと思いますし、彼らをどうやって支えていくかが今後重要になってくると感じています。

たというお話がありました。これから、そういう形で活動が続いていくのでしょうか。

山本…2008年からアフガニスタンに日本人職員を置くことができない状態が続いていましたが、通常は日本人職員が担うような役割も含めて、アフガニスタンでは主に現地職員が中心となって事業を進めていました。10年以上前から定期的に来日し、日本の支援者の想いや、東京事務所の動き方などについて知る機会を設けていたので理解も深いですし、これからも現地職員主導で活動を進めていければと考えています。

道傳…今後の活動への影響や、心配なことはどういうことでしょうか。

山本…私たちが活動してきた教育分野は、アフガニスタンの数ある課題の中でも、20年間で飛躍的に改善が進んだと感じていますが、まだ質の面で課題を抱えており、今後どのように教育の機会が守られていくのかという懸念があります。

ただ、90年代と違うのは、現時点でタリバン政権も教育を受けること自体



カオイダン難民キャンプの移動図書館。
子どもたちが本を選んでいる

シャンティ設立。小舟は漕ぎ出した

曹洞宗東南アジア難民救済会議は2年間での活動終了を決めた。日本人ボランティアが現地で射殺された事件が影響した。ボランティアたちは難民を見捨てることはできないと活動の継続を願った。その思いで1981年12月10日に結成されたのが「曹洞宗ボランティア会(SVA)」だ。ボランティアOB・OGの素人集団が、有馬師という船頭の叡智を頼りに小舟を荒波に漕ぎ出した瞬間だ。乗組員は何も分からずに、ただ目だけをキラキラと輝かせていた。(副会長 三部義道)



©Yoshifumi Kawabata

難民キャンプの図書館で

1991年

1985年

1981年

カンボジア事務所設立

希望=平和の到来。内戦と虐殺の時を越えて

当時のカンボジアはソ連の援助が止まり、生活は窮乏の極致にあった。しかし、人々は不安の中にも内戦の終結と平和の到来に希望を抱き、シャンティの活動に未来を託し、熱心に参加してくれた。(シャンティ専門アドバイザー 手束耕治)



プノンペン市内 市内バス。改築中の建物が多かった

「クラフトエイド」の始まり

タイ国内のラオス難民キャンプでモン族の人が作る刺繍やパッチワークなどの商品を日本に持ち帰り、難民支援バザーを開催したのが始まりです。

タイ事務所から シーカー・アジア財団(SAF)に 名称変更

タイ国内で登記し、現地法人として歩み始めました。

どうか皆さまにおかれましても、「日暮れて道遠し」という思いをお持ちかもしれませんが、私たちとシャンティ(平和)への道を共に歩んでくださいますようお願い申し上げます。

世界には、人種・民族・宗教・国家といった違いがさまざまありますが、ただ一点、人として平等と言えるのは、生まれ出ずる生命には意味があるということだと思えます。その尊厳を守るための種をまき、育んでいくことは今までと比べると一層深化させながら、この輪を拡げていきたいと思えます。

シャンティの原点、そしてこれまでのあゆみを振り返ります。

40年のあゆみ

特集

40周年の節目を越えて

会長 若林恭英



日頃シャンティの活動を温かく見守ってくださる皆さまに、改めて深甚なる感謝を申し上げます。おかげさまで設立以来、40周年という節目を越えることとなりました。この間さまざまな課題をなんとか乗り越えてきましたが、昨年のミャンマーのクーデターとアフガニスタン政変においては、組織として激震に襲われた感があります。ただ現地の人々が被っている困難は想像を絶するものでしょう。こうした時であるからこそ、皆さまに支えられ培ってきた経験・知見を総動員し、支援を届けていきたいと念願しています。



シャンティ国際
ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

団体ロゴを
リニューアル



レイケイコ村

ミャンマー国境支援事業事務所開設 タイ・ミャンマー国境での事業開始

タイの難民キャンプから帰還した人たちと出会いました。帰還プロセスの難しさはありましたが、新しい生活、未来の地域づくりに取り組む彼らの姿にふと「平和」の文字が浮かびました。少しでも貢献できる活動を作り上げていきたいと思いました。(中原亜紀)



仮設住宅での移動図書館

東日本大震災支援事務所設立 最大規模の国内災害と向き合う

津波は地震と違ってすべてを根こそぎ、奪っていく。福島第一原子力発電所の爆発により放射線の恐怖にも翻弄された。さらに、広範囲に被災地が点在し、活動拠点づくり、ボランティア確保が大きな課題でもあった。(市川斉)



メコンカ難民キャンプ

ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ事務所設立 難民キャンプに図書館を設立する

大変だったのは、既に活動している他の難民支援団体とタイ政府内務省の事業承認を得ること、事務所立ち上げ当初は職員が定着しなかったことだ。他にもたくさんあるが、今となっては良い思い出。(三宅隆文)



完成した謄写版

ラオス事務所開設

タイのラオス難民キャンプ閉鎖に伴い、1992年4月にラオス事務所を開設した。当時の主な事業は謄写版の製作・普及、教材製作と図書館事業。教育省からの謄写版への期待は特に大きく、目標は実演研修の全国展開であった。(常務理事 秦辰也)

2020年

2019年

2016年

2014年

2011年

2003年

2001年

1999年

1992年

日本国内で外国にルーツを持つ子どもの支援を開始

ネパール事務所設立 自然災害、政変、混乱期との対峙

死者8,460人、負傷者2万人以上、人口の約3割が被災した大地震の被災者支援中に、教育施設への復興支援のため事務所設立が決定。緊急時の混乱に加えて、憲法をめぐる政変で制度が日々変わる中での事務所開設は大変でした。シャンティが未経験の地で、財政難で短期間かつ少人数での新規事業形成、協働団体やネットワークの構築は、綱渡りの連続でした。(山本英里)



地震発生後の教育支援

ミャンマー事務所設立 新しい文化と価値観の学びからの開始

地方であるピーに事務所を開設したため、事務所備品などを調達できる店が限られており、ヤンゴンから注文せざるを得ませんでした。借り上げた一軒家を事務所にしたのですが、いろいろと修繕が必要で床タイルなどを注文するも間違った商品が届くことが多々ありました。ある日、お店の人がサンプルのタイル1枚をバイクで持ってきて「これで合ってるか?」と確認された時には笑うしかなかったです。(中原亜紀)



小学校での移動図書館活動

アフガニスタン事務所設立 初めてのイスラム圏での事業開始

事務所もなく電気もない中で生活し、24時間安全対策を配慮して事業を実施した。信頼できるアフガニスタン職員の存在が唯一の救いだった。絵本が受け入れられるのか手探りであり、すべてがゼロからのスタートだった。(市川斉)



移動図書館活動

「絵本を届ける運動」の始まり

絵本が不足しているカンボジアとラオスへ、日本語の絵本に現地の言葉の翻訳シールを貼った翻訳絵本を届けました。初めて見る絵本に目を輝かせる大勢の子どもたちが1冊の絵本を囲み物語を楽しみました。



原江寺翻訳絵本づくり

座談会

シャンティの

これから

2021年5月、東京事務所でシャンティの中核を担う職員6名による座談会を開催しました。それぞれシャンティの海外事務所や、一般企業での経験などを経て、社会と環境の変化に対応しながら活動する中で、どのようなことを感じてきたのでしょうか。日々の取り組みから感じるシャンティらしさや、40年目を迎えたシャンティの将来像について語りました。

人と人のつながりから
見えてくるシャンティらしさ

聞き手…本日は皆さんありがとうございます。40周年を迎えるにあたり、皆さんが考えるシャンティの良さ、シャ

ンティではないかと。こうして40年ずっとシャンティマインドが受け継がれて、共通した想いを持っている点はシャンティの良さだと思います。

吉田…タイのシーカー・アジア財団（現在はシャンティのパートナー団体）で働いていた頃、カンボジアのカオイダン難民キャンプで活動していた元職員から、過去に「おはなしキャラバンセンター」の皆さんから読み聞かせの研修を受けた話や、「おはなしは教育の原点」という内容のタイ語で制作された冊子を見せてもらいました。

私は恥ずかしながらそれまでその冊子の存在を知らなかったのですが、今も職員が入った時には必ず読み、読み聞かせをする時に大切にしていると教えてくれました。現地で活動の根幹が受け継がれているを感じた瞬間でした。

谷島…活動地での学校建設の贈呈式に日本のご支援者の方と参加した時に、長くご支援いただいている方が「シャンティの贈呈式には、いつも安心して参加できる」と言ってくださって。東京事務所と現地職員が、細かい部分ま



ひらしまようこ
平島 容子

広報・リレーションズ課
課長補佐

一般企業を経て、2011年入職。「絵本を届ける運動」を担当したのち、2021年から現職。



かみたとけんじ
嘉味田 倫慧

クラフトエイド課
課長補佐

アパレル企業で中国駐在後、2016年入職。支援者リレーションズ課（当時名称）を経て、2017年から現職。



やじま みどり
谷島 緑

事業サポート課
課長補佐

2019年入職。開発コンサル会社などを経て、2021年から現職。



よしだけしすけ
吉田 圭助

広報・リレーションズ課
支援者リレーションズチーム

一般企業から大学院を経て、8年間タイで活動。シーカー・アジア財団での勤務を経て、2017年入職。



やまむらさとこ
山室 仁子

広報・リレーションズ課
支援者リレーションズチーム
チーフ

2008年入職。カンボジア事業担当等を経て、ラオス事務所に3年間駐在。2019年から現職。



きくち あやの
菊池 礼乃

事業サポート課
課長

大学院留学後、2011年入職。ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所に7年駐在。2019年から現職。

ンティらしさを教えてください。

菊池…難民子ども文化祭を開催した時に、難民キャンプのリーダーから「シャンティの活動は私たちの文化や言葉、尊厳を大切にしてくれるところが良い」と教えてもらったことがあります。図書館活動や文化活動が、厳しい状況にある難民の人たちにとっていかに重要かを感じるとともに、これこそがシャンティらしさだと思います。あと、図書館では子どもたちが思い思いに過ごしていて、閉鎖された難民キャンプの中でも図書館には自由があるんですね。この自由な居場所として図書館の力を信じているところもシャンティらしさだと思います。

山室…ラオスに駐在していた時、ほかのNGOや企業の方は、ラオス人と働く上で分かりあえない…といった話をよくしていたのですが、私は共感できませんでした。その理由を考えると、たとえばラオス人の新しい職員が入った時には、長年働いているベテランの現地職員や、日本から来た理事や東京事務所の職員と話すことで、シャンティマインドを知る機会が多かったか

で完璧に調整しているからこそだと思います。マニュアルがあるからやるのではなく、これをやった方がより良いと自発的に取り組む姿勢は、シャンティマインドからきているのではないかなと思います。

嘉味田…クラフトエイド課で関わる生産者団体や作り手からよく言われるのが「長い間支援をしてくれてありがとう」という言葉です。難民キャンプ時代から30年以上一緒にいる団体もあります。当時のやりとりや資料を見るととても丁寧にヒアリングしているのが分かりますし、現地に行った時には一緒にご飯を食べるなど、取り引きだけではなく、人と人としてのつながりが続いているからだと思っています。

平島…私はご支援者の皆さまとコミュニケーションする機会が多いのですが、アジアの人たちが身近に感じられた、ということでお礼を言われることがよくあります。今日も、80代の方からお電話があつて。たまたま行ったお寺でクラフトエイドの商品を見かけたそう、刺繍の一針一針からアジアの女性を近くに感じて、温かい気持ちで

帰ってきた、というお話でした。ほかにも「子どもからのメッセージ」を読んで、アフガニスタンがぐっと近くに感じられました。ありがとうございます」と書かれた手紙が届いたこともあります。最近では皆さん簡単には海外に行けないですし、海外の人と知り合う機会も少ないので、海外の報道などを見てもなかなか身近に感じられないですね。そんな中でも、クラフトエイドの商品や、活動地の子どもたちからのメッセージを通して、活動地のことを近くに感じられたと言って喜んでくださる。シャンティの丁寧さの表れかな、と思っています。

世界に広がる シャンティな人たちと進む未来

聞き手…今年はシャンティの活動地で大きな政変が起こり、先の見えない中ですが、40年後のシャンティはどうなっていると思いますか。

谷島…40年後は団体として存在しなくてもいいぐらい、シャンティな（平和な）世界になっていてほしいというの

ら、後輩たちに奨学金を渡せる業務を担えることがすごくうれしいと熱意を持って仕事に取り組んでいます。ここからさらに40年後、こういったつながりがますます増えていくことを期待していますね。

菊池…難民キャンプから第三国定住してアメリカに行った女の子がいたのですが、彼女が大学生になった時、シャンティでボランティアをしたいと言って夏休みにアメリカからタイに来てくれました。その子のお母さんは、渡米前に難民キャンプで図書館員をしていたのですが、彼女も小さい頃から図書館にいて、絵本を読んだり、大きくなると読み聞かせの活動をしたり、それが彼女にとってすごく良い時間だったと感じてくれていたようです。彼女のよう

にシャンティと何かしらの形で関わりを持って育った人が、いま世界各地にいてと思うので、これからは彼らと一緒に活動する仲間になることを期待しています。

嘉味田…新たに加わる課題、どうしても解決できない課題が残る中で、世界中にいるシャンティマインドを持った



ラオスで活動する山室



ラオスでの学校贈呈式



難民キャンプで活動する菊池



クラフトエイドの始まり

が本当の気持ちです。ただ、災害などの時に迅速に支援ができるような仕組みや、それができる人材がいることは必要だと思っています。

菊池…現地職員は、現場に深く根差して、長年その国の課題と向き合い、困難の中にいる人々に寄り添っています。そんな彼らと東京事務所で隣に座って話をしながら、世界にまだ残っていくさまざまな課題を共に解決していくことができたと思います。そのためには東京事務所の業務を英語中心にしていくなど整えるべきことはたくさんありますが、こういった変革も含め、シャンティマインドを持つている現地職員がリードするというのも一つの形だと思います。

山室…東京事務所からだけではなく、カンボジア事務所からラオス事務所へ、といったような配置転換ができたらシャンティとして革新的ですよね。

吉田…私が以前所属していたシーカー・アジア財団で奨学金を担当している職員は、もともとスラム出身で奨学金を受けていた子どもなんです。彼は自分が奨学金を受けて今があるか

人たちが、いろいろな問題を解決する一つの大きな組織になっているというのが私の理想にも近いです。

平島…世界中に協力できる人がいて、「こういう人が困っているから支援したい」と言った時にすぐ動ける仕組みづくりができていたらいいな、と私も思います。災害もなくならないし、大変な状況も生まれ続ける。一人ひとりが発案して、もっとスピード感を持って実施できるようになるといいと思います。相手が自分の知らない言語を話している、進化した翻訳機などを通して意思疎通ができるようになるはずですし、そうするとより誰でも参加しやすくなっているのではと思います。

企画・編集・広報・リレーションズ課 鈴木晶子
編集・校正・高橋明日香

本誌には一部を抜粋して掲載しています。座談会の全文はこちらからご覧いただけます。



パリカ 総務・経理/
オペレーションスタッフ



ペットと遊ぶ、
家庭菜園、動画視聴

ソッキア ドライバー



料理、動画視聴

ナット ドライバー



家の家具作り

ダー クリーナー



雑誌を読む

てづか こうじ
手束 耕治 アドバイザー



体力維持のための体操、
スロージョギング

ティダ 幼児教育事業/
プロジェクトスタッフ



料理、調べ物、読書

ソンバット
テクニカルサポート/エンジニア



映画鑑賞、
音楽を聴く、運動

ニー ノンフォーマル教育事業/
コーディネーター



運動、ニュースを調べる、
家の修理

ラタナ ノンフォーマル
教育事業/プロジェクトスタッフ



掃除、料理、動画視聴

やまうち の え
山内 乃絵
コーディネーター



音楽を聴く、動画視聴、
読書

モンクラ
幼児教育事業 / コーディネーター



読書、ネットサーフィン、
家族との時間を過ごす

ファリナ 幼児教育事業/
プロジェクトスタッフ



映画鑑賞、料理、読書

フーン 学校建設、幼児教育
事業/プロジェクトスタッフ



Webニュースや本を
読む、eラーニング

サイハー 学校建設事業/
プロジェクトスタッフ



家庭菜園、
ネットサーフィン、子育て

いしづか さき
石塚 咲
コーディネーター



刺繍、パン・お菓子作り

ロアット テクニカルサポート/
アシスタントコーディネーター



掃除、料理、子どもの
勉強をサポート

ソケナ ドライバー



音楽を聴く、奥さんと
カラオケや写真撮影をする

サムウン ドライバー



子育て、家事のサポート

フーイ クリーナー



料理、洗濯、掃除、
近所の人とおしゃべり

ヴィスナー
フィールド事務所マネージャー/
シニアコーディネーター



家族や友人との時間、
掃除、家庭菜園

Q: おうち時間の
過ごし方は?

かせ たかし
加瀬 貴
カンボジア事務所 所長



晩酌のおつまみ作り、
音楽を聴く

ライム 経理/
シニアコーディネーター



料理、掃除、洗濯、
散歩、テレビを見る

ソリダ 経理/アシスタント
コーディネーター



家事、ドラマを見る、
睡眠、時々歌う

ソフィアビー
総務/コーディネーター



2人の子どもの子育て、
料理、家事

海外事務所職員紹介

各国の事務所で働く職員は、東京事務所で働く職員の
約2倍。長年勤務している職員も数多くいます。今回は
それぞれが担当する役割をご紹介しますとともに、おうち
時間の過ごし方も聞いてみました。

アフガニスタン

ネパール

ミャンマー

ミャンマー(ビルマ)
難民キャンプ

ラオス

カンボジア



カンボジア
Cambodia





アフガニスタン Afghanistan



※セキュリティ上、名前などは伏せております。

ノン ドライバー



甥と遊ぶ、鶏やアヒルの世話、野菜栽培

エン クリーナー



娘と一緒に体を動かす、オンライン学習支援

ノイ 総務経理調整員



村の感染対策手伝い、コロナ禍の生活の工夫

あさぎ まりや 浅木 麻梨耶 コーディネーター



筋トレ、読書、映画鑑賞

シーライ プロジェクトスタッフ



ガーデニング、鉢植えや果樹を育てること

ヤン プロジェクトスタッフ



子どもたちと過ごす、庭の草取り、鶏の世話

タイ プロジェクトスタッフ



娘に読み聞かせ、読書、オンライン英語学習

ブンリエン プロジェクトスタッフ



父や兄の畑の手伝い、鶏や豚、水牛の世話

ラン ドライバー



村でコロナ感染拡大防止対策の手伝い



ラオス Laos



ナー 経理スタッフ



コロナ情報確認、花の栽培、掃除、料理

センサワン プロジェクトスタッフ



コロナ情報確認、感染対策のための情報収集

ブンホン プロジェクトスタッフ



家事(掃除や洗濯)、読書、テレビ・音楽鑑賞

たまり きよたか 玉利 清隆 ラオス事務所 所長



読書、ギター演奏

オイ プロジェクト調整員



コロナの最新情報確認、料理の勉強、運動

デン 総務スタッフ



コロナ情報確認、家族とガーデニングや料理



ミャンマー(ビルマ)難民事業事務所(BRC)



ミャンマー
Myanmar



トータ
カウンターパート渉外担当



読書、執筆、瞑想

なかばら あき
中原 亜紀
ミャンマー事務所 所長



お笑いのDVDを見ること、
新メニューづくり

ティン・ミヤ アシスタント
プロジェクトコーディネーター



語学勉強、韓国ドラマや
日本のアニメ映画を見る

ヤンナイ
コーディネーター



友人や家族との電話、
映画鑑賞、音楽を聴く

スィラ 図書館アシスタント
コーディネーター



ガーデニング、料理

エッソ 図書館活動コーディネーター



子どもと夫に
おいしい料理を作る

ミャンマー(ビルマ)
難民事業事務所
(BRC)



ソトウ
プロジェクトスタッフ



読書、料理の勉強

カイン
プロジェクトスタッフ



料理、運動

コゾウ ドライバー



家族と過ごす、
ガーデニング

テテ 教育改善事業スタッフ



ニュースを見る、健康維持の
ためビタミンCを毎日摂取

ゼヤ
アシスタントコーディネーター



十分な休息と栄養を取る

ディック
経理コーディネーター



息子の
オンライン学習のサポート

ブラウイット 図書館
アシスタントコーディネーター



図書館活動に使える
ゲームや歌をYouTubeで探す

セイラー ミャンマー(ビルマ)
難民事業事務所 副所長



ガーデニング、
ニュースや映画を見る

ウ・ゾウ ドライバー



家業の手伝い

タンナイ ドライバー



家事、畜産、子どもの世話

エワ
総務経理課長



娘のオンライン学習の
サポート

メメ 総務経理課長



子どもの自宅学習をサポート、
オンラインで英語の勉強

ユパー 総務経理担当



コロナに感染した家族の
看病や買い出し

ドー ドライバー



子どもたちの
オンライン学習のサポート

イン 図書館アシスタント
コーディネーター



運動、サイクリング、
ドキュメンタリーを見る

ウェン
総務コーディネーター



母親とヨガや
ウォーキングをする

シュエシン クリーナー



呼吸法トレーニング、瞑想

ドーチーチャー クリーナー



料理、規則正しい
生活をする

シトウ 総務担当



呼吸法トレーニング、瞑想

エピュ 総務経理担当



読書、音楽を聴く、瞑想、
友人と電話で話す

ハニー
プロジェクトコーディネーター



家族や友人と
オンラインで会う、料理

加瀬…青年海外協力隊として活動していた頃は現地の人たちの頑張りを支えるのが役割でした。嫌な顔をされる

これからも受け継いでいきたい
シャンティの良さ

普段はラオス、ネパール、カンボジア、ミャンマーにいる各事務所の所長4名による座談会をオンラインにて開催しました。紛争や災害といった困難な状況に加え、2020年から続くコロナ禍にも対応しながら、現場の最前線で活動続ける姿は、シャンティを体現しています。そんな4名が、これから大切にしたいシャンティの良さ、理想的な将来像を語りました。

最前線から いと思うこと 所長座談会



聞き手
鈴木晶子
広報・リレーションズ課 課長
2005年入職。

シャンティを漢字で表すと「創」。活動地の人々、現地職員、東京事務所の職員、シャンティを応援し一緒に歩んでくださる皆さんによってシャンティは創られてきました。



玉利清隆
ラオス事務所 所長
2014年入職。

現場の声を聞きながら、共に共通理解を持って活動していくことをモットーにしており、シャンティを漢字で表すとすれば、共存の「共」。



三宅隆史
ネパール事務所 所長
1994年入職。

社会や経済、政治などに先行して、なによりも学びが世の中をつくと考えており、漢字でシャンティを表すと「学」。



加瀬 貴
カンボジア事務所 所長
2013年入職。

それぞれが主体となって選んでいくことができる社会を目指したいという思いを持ち、漢字でシャンティを表すとすれば「選」。



中原亜紀
ミャンマー事務所 所長
1998年入職。

漢字でシャンティを表すと「変」。自分たちも相手と共に「変わる」過程で目指す社会をつくる。

ビノッド・ダス・グルン
コーディネーター



子どもと遊ぶ、料理、博士号のための勉強

ガネシュ・クマル・ラマ
事業コーディネーター



料理や掃除の手伝い、子どもと遊ぶ、犬の散歩

みやけ たかふみ
三宅 隆史
ネパール事務所 所長



テレビや映画を見ること、小説を読む

エキナ・マナンドル
総務、ロジ



Netflix

プレム・クマル・リンブー
ドライバー



家の掃除、ビデオゲーム

ビンドラ・ブラサード・チョウ
ラガイン クリーナー



子どもや家族の手伝い、園芸

ブラジュ・シュレスタ
総務会計アシスタント



映画鑑賞、家族と過ごす

ナワール・キソール・バドゥ
アシスタントコーディネーター



勉強、映画鑑賞、TVゲーム



ネパール
Nepal



Cambodia Laos Afghanistan Myanmar Nepal

こともありました。中にはもったくさん知りたいと言ってくれる人もいたのです。その時に、自分が主役というよりも、そこにいる人たちがどうしたら心を燃やして活動に取り組めるのかということを考え始めました。それから『地球寂靜』（団体設立メンバーのひとり、有馬実成氏の著書）を読んだ、自分が感じていたことは「ボランティア触媒論」だったのだと共感しました。ボランティア触媒論は大切にしていきたいですね。

玉利…現地に拠点を持っている団体として、途上国政府の考えや、場合によっては国際的な潮流を踏まえながら、現地のニーズを大切にすること。そして、実際に彼らが自立するため、こういったサポートが必要なのか、という視点を持った活動が大切だと思います。特に現地職員の知見や情報を大切に、かつ日本人職員が持っている各国での経験やグローバルな視点を融合させることで、良い事業の計画・実施ができると思います。

鈴木…玉利さんが現場のニーズや視点を考える時に、いつも気を付けている

けています。

三宅…私が思う受け継ぐべきシャンティの良さの1つ目は、開発や人道支援において文化を大切にしていることです。難民は着の身着のままです。来てきて、難民キャンプにたどり着くわけですね。何も持っていない状況で、ただ唯一文化は持つていて、シャンティはこのそれぞれの文化を基礎にしているいろいろな支援に取り組みます。たとえば、本も外国から持ってくるだけではなく、カンボジアの民話を収集しての出版や、アフガニスタンでは昔話や民話から絵本や紙芝居を制作しました。現地の人たちが良いと思えるものを大切に、それが文化を大切にすることだと思っています。

2つ目は、シャンティの「共に生き、共に学ぶ」という姿勢です。技術革新も、人々の行動変容にも学びが必要。学ぶことで、社会で責任を持ちながら生活し、貢献していくことができる。生きているから学ぶのではなく、学びこそが生存を保障することだと思っています。

シャンティは、事業として教育を大



勉強するネパールの子どもたちと三宅



活動地で読み聞かせをする加瀬



ミャンマーで活動中の中原

ことはあります。

玉利…まずは相手の話を聞くということですね。ワークショップ形式を導入するなど、できる限り本音を聞くようにしています。

中原…「Think globally, Act locally」という言葉を有馬さんから教えていただいて、それを軸に現場で向き合っていました。

鈴木…これまで事務所開設に携わることも多かった中原さんが事務所を立ち上げる時に大切にしていることを知りたいです。

中原…シャンティが誕生して今に至るまで組織として成長してきましたが、根底にあるものは変わっていないと思います。どういう思いでこの団体が作られたのかを大事に伝えていくことが大切だと思います。特に新しい現場で活動を開始する時には、新しい種を植えるわけで、国によって違う色の花が咲くことは素晴らしいと思うのですが、根幹は同じであってほしいと思います。そういう意味で有馬さんが残したたくさんの言葉や、ほかの諸先輩方の思いなどしっかり伝えることを心が

事にするだけではなく、社会、経済、政治など、あらゆる場面において学びが先行する社会を目指していますよね。ユネスコが「共に生きるために学ぶ」というスローガンを出したのは、2000年くらいのことです。有馬さんはもともと前からそのことを提唱し、今も普遍的な価値をもたらしていると思います。

シャンティだからこそできること

加瀬…現地職員と話す、支援の受け手と直接コミュニケーションしながら事業を進められることがすごくうれしいし、シャンティの強みだと言っています。受益者一人ひとりの人生と経験、それぞれが持っている尊厳を大切に、して事業を行う姿勢があると感じます。

玉利…シャンティは自ら形成した案件を実施するために、形成過程で抱いた想いや考えを、実施時にも反映させることができ、事業実施中に「ちょっと当初の想いと違うな」となれば軌道修正ができます。つまり、形成時の想いや目的を達成するために主体的に事

三宅…NGOはサービスを提供するだけではなく、変革の担い手としての役割があります。シャンティは、SDG4の達成に向けたアドボカシー、政策提言、キャンペーンを行う教育協力NGOネットワーク（JNNE）で主導

役割が担えたらと思います。
中原…日本が抱える問題も増え、国際社会においても地球規模の取り組みとして一丸となって取り組まないといい

ます。日本からの絵本を現地語で配布したり、少数民族地域やスラム地域の子どもたちを対象に、自分たちの民族の証しに気づき、継承できるような後方支援をしたり。これらの活動を教育文化活動の枠組みの中で実施しているというのは、大事な取り組みだと思っています。

理想的な将来像

玉利…10年後でさえよく分からない時代ですが、現在では想像できない課題に対して、先進国・途上国にかかわらず、さまざまなアクターと協力しながら対応していくのが理想なのかなと思います。

加瀬…必要なのは、異なる社会を受容できる世の中の理解だと思っています。それこそシャンティがそのための「触媒」になるということかもしれません。

ん。国を越えた友好関係や相互理解を築くために、人と人をつなげるような役割が担えたらと思います。

本誌には一部を抜粋して掲載しています。座談会の全文はこちらからご覧いただけます。



上：新しく建設したネパールの図書館を訪問（三宅）
左：子どもたちと絵本を楽しむ（玉利）



業の実施に取り組み、さらに事業実施後の評価まで一貫して行うことができるわけですね。一方、団体によっては、案件形成者と実施者が異なり、事業実施が契約に縛られて、本当に受益者にとって必要な活動を行うことが困難なケースもあるかと思っています。私たちは受益者のニーズを最優先に考え、それを満たすために、積極的にドナーとの交渉にも努めます。そういう点も一つの特徴なのかなと思います。

あともう1点、プロジェクトベースの協力では3年から4年の期間が終了したら撤退してしまうことが多々ありますが、シャンティの場合は各地に拠点があるので、長期的な視点で課題に取り組むことができます。また、長年事業を実施してきた経験豊富な現地職員もおり、活動地の状況を良く知り、行政機関と関係を築いていることも強みだと思います。

中原…独自でユニークなアイデアを柔軟に取り入れて事業にするのが得意な団体だと思います。

あと、教育支援だけではなく、教育文化支援という枠組みが特徴だと思います。

ない状況になっていくと思うと、共に未来をつくり上げていくような関係性の中に、シャンティが存在しているといいのかなと思います。

三宅…SDGsの時代になって、地球規模課題は途上国だけじゃなくて、日本を含め先進国にもたくさんあることが広く知られてきましたよね。八木澤さん（シャンティアジア地域ディレクター）がよく言っていますが、カンボジアの子どもは学校に行きたくても行けない。日本の子どもは学校に行きたくないのに、行かないといけない。どちらがつかない状況か、考えてしまいます。国内課題と国際課題の両方に取り組み、両者をつなげるということが、シャンティが目指すべき「触媒」としての役割なのだと思います。

40年、 覚悟新たに



シャンティ国際ボランティア会 事務局長
兼 アフガニスタン事務所所長 山本英里

シャンティの設立40周年キックオフイベントとして迎えた2020年、組織の基盤強化を主軸にした中期事業計画を役員一丸となって推進することを宣言しました。より多くの人々、子どもたちへ支援を届けるために、組織としてさらに成長していく必要があったからです。ところが、4月には新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が日本国内で出さ

れ、感染拡大の波は瞬く間に海外の活動地も襲いました。職員の安全を第一にしながらも、国内外で必要とされる支援活動を止めないという方針を掲げましたが、コロナ禍での活動継続は、40年の蓄積や経験に加えて、この難局を乗り越えていくための新たな発想が必要となりました。

そして、世界的に感染拡大収束の目途が立たないまま迎えた

2021年2月、ミャンマーで軍によるクーデターが勃発しました。シャンティにとっては、2014年にミャンマー事務所を開設して以来、教育文化支援活動を継続し、ようやく国内でも広く認知されるようになった矢先の出来事でした。現地の職員と共に毎日のように議論を重ね、暴力や武力による非民主的な弾圧には強く抗議をするものの、私たちは支援を止めるべきではないという結論に至りました。大幅な事業縮小は強いられ、私たちの40年間の軌跡を見つめなおすことで出てきた答えでもありました。ただ、複雑化する情勢の中で、ミャンマーに寄り添っていくことは容易ではなく、ミャンマー人、日本人共に、葛藤する日々が続いています。

そのような中、「タリバンによるアフガニスタン制圧」のニュースが飛び込んできました。米軍が無条件完全撤退を決定した4月、アフガニスタンの国内情勢が混乱することは予想していましたが、その日は突然やってきました。長年の治安不安、干ばつといった自然災害、そして新型コロナウイルスの感染拡大に、経済は大きく打撃を受け、国民の半数以上が困窮生活を送らされている状態でした。「今、シャンティがすべきことは何か」という問いに対して、ミャンマー同様、決して支援は止めないというのが職員で出した答えでした。

これからの社会における支援は今以上に困難になると思われれます。しかし、だからこそ一人ひとりのつながりでのみ乗り越えられるのではないのでしょうか。40年という節目に直面している困難は、私たちがこの先成長し、より多くの人々に寄り添うことができる力と、その覚悟を試されているのかもしれない。

2019年度に、2024年度までに取り組む中期事業計画を策定しました。
4つの領域に注力し、新たな事業を展開していきます。

中期事業計画

4 組織の国際化を目指します

日本生まれのNGOとしてさらに事業を推進していくために、人材育成や多様な働き方の導入など、組織基盤を強化します。

- ▶組織基盤の強化
- ▶職員の能力開発、次世代リーダーの育成
- ▶国を越えた国際職員の配置
- ▶多様な働き方に柔軟に対応できる制度の整備
- ▶国内外での認知向上、多様な財源の確保

*2019年：次世代リーダー育成のため、各事務所から職員が来日し、東京事務所の職員と共に研修を行いました。

3 政策提言、パートナーシップを強化します

子どもの権利条約第28条・29条「教育の目的」達成に寄与することを目指し、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを強化します。

- ▶読書推進を行う企業、団体との連携強化
- ▶専門家と共に事業や活動成果の検証、効果測定、調査研究の結果公表
- ▶活動地における教育政策の改善に寄与する提言書の作成
- ▶市民が気軽に参加できる「絵本を届ける運動」ワークショップの推進、市民とのコミュニケーション強化

2 日本国内での新規事業を推進します

シャンティが培ってきたアジアでの経験と学び、つながりを生かし、日本における子どもの貧困、外国ルーツの子どもたちが抱える課題を解決するため、日本国内での事業を推進します。

*2020年：国内事業として、外国ルーツの子どもたちを対象とした居場所づくり事業を開始しました。コロナ禍ではオンラインで、子どもたち同士が自分のペースで交流できる場を設けています。

1 専門性を高め、新たな海外事業を展開します

シャンティが継続して取り組んできた絵本やおはなしの読み聞かせを軸とした読書推進、ライフスキル教育を強化し、新たな海外事業を展開します。

- ▶図書館活動のノウハウのパッケージ化、ノンフォーマル教育分野での活用
- ▶国内外の緊急人道支援における図書館活動
- ▶アジア以外での緊急人道支援、新しい国・地域における活動の展開

*2020年：新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動地と日本での緊急支援事業を実施しました。

シャンティからのお知らせ

設立40周年を迎え、ウェブサイトリニューアル

設立40年に際し、昨年よりロゴマークや広報媒体のリニューアルを行ってきました。一連のリブランディングの集大成とし、40周年にあわせてウェブサイトをリニューアルしました。

新しいウェブサイトではご支援者さまにはより深く、そして新たに活動に参加して下さる方にはより分かりやすくシャンティについて知ってもらえるよう、シャンティを表現するメッセージの更新や、最新の活動の様子が伝わるようなデザイン、SDGs達成に向けて参加型教材をまとめたページを新しく作成しました。ぜひご覧ください。



ウェブサイトは
こちらから

シャンティ発行回数、発送方法変更のお知らせ

長年にわたり会報誌『シャンティ』をお読みいただきありがとうございます。事務局の体制変更、輸送費などのコスト変動により、2022年より年2回の発行とし、紙の封筒での発送に変更させていただくことになりました。発行回数は減りますが、活動地の様子は『シャンティ』だけではなく、ウェブサイトやSNS、メールニュースなどでも随時お伝えしてまいります。引き続き、ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

第28回読売国際協力賞を受賞

読売国際協力賞は、さまざまな活動を通じて国際社会への貢献の重要性について身をもって示した個人や団体、企業が表彰されるもので、今回シャンティはアジア6か国8地域で図書活動を中心とした教育文化支援活動に長年取り組んでいることを評価され、受賞するに至りました。いただいた副賞の500万円は、アジアの子どもたちの教育文化支援活動に大切にに使わせていただきます。

詳細はこちらから
ご覧ください



2021年度定期総会開催について

2021年度定期総会を下記の通り開催いたします。総会での議決権がある社員会員のみなさまには、3月初旬に出欠確認ハガキと資料をお送りします。ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

日 時: 2022年3月28日(月)
主 議 題: 2021年度事業報告・決算報告について
2022年度事業計画・予算案について

人事のお知らせ

● 退職

9月30日付

塙香織

広報・リレーションズ課 マーケティングチーム
絵本を届ける運動担当

小長谷陽子

経理課 国内経理担当補佐

11月10日付

笠松康子

経理課

11月30日付

土居桃子

事業サポート課 海外事業補佐

シャンティ 2022年冬号(通巻313号) | 2022年1月1日発行

発 行 人: 若林恭英

発 行 所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編 集 人: 山本英里、鈴木晶子

編集・制作: 株式会社文化工房

印 刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
©Shanti Volunteer Association.
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



カンボジアの子どもたち。
最高の笑顔がありがう!

笑顔をお届け

「他者を思いやり、社会にどれだけ多くの笑顔をもたらすことができるか」。ここに生きる意味を私は見つけました。ただ、それを実行するのは簡単ではないことを知っています。私自身つい自己利益を求めてしまう弱心の持ち主だからです。シャンティは40年にもわたり、世界各地で数多の笑顔を作り続けてきました。その裏には、関係者の方々の多大なるご尽力があったに違いありません。中には、少なからずの自己犠牲も伴ったのではないのでしょうか。ただただ敬服するばかりです。

シャンティの活動に僅かながらでも関わらせていただいたことを改めてお礼申し上げますとともに、次のステージでも、世界中で満面の笑みが広がることを楽しみにしております。



上: ラオス山岳地域にて。追いかけてこの後にみんな一枚。

下: ミャンマー寺院学校の少女たち。子どもの笑顔は世界の宝。